



Japan Creation AWARD 2025



日本クリエイション大賞とは？

「より豊かな生活文化の創造」を標榜する一般財団法人日本ファッション協会が主催する顕彰事業です。

1980年代の半ばに日本・東京商工会議所の五島昇会頭は、「これからは繊維産業のみならず、生活文化すべてをファッションと定義する」と提言。85年に東京ファッション協会を、続いて89年には日本ファッション協会を設立し、自ら初代会長に就任し、戦後の混乱から高度経済成長期を経て「経済大国」となった時代にあって、成熟した生活大国・文化大国の実現を追求しました。

その思想をより具体的な形で推進するために、東京ファッション協会は87年に「東京クリエイション大賞」を、日本ファッション協会も91年に「日本生活文化大賞」を創設し、それぞれ顕彰事業を実施してまいりました。

2004年度に、東京、日本の両ファッション協会が統合され、新生・日本ファッション協会の誕生を機に、それまで、別々に実施してきた2つの賞には「より豊かな生活文化の創造」に寄与するという共通の目標があることから、両賞を「日本クリエイション大賞」として統合し、以来、毎年優れた案件の顕彰に努めています。

歴代授賞案件は当協会HPをご参照ください。

<https://www.japanfashion.or.jp/creation/prize>

日本クリエイション大賞 2025 実施要項

1. 表彰対象

製品、技術、芸術・文化活動、地域振興、環境、福祉など、ジャンルを問わずクリエイティブな視点で生活文化の向上に貢献し、次代を切り拓いた人物やプロジェクトなどを表彰対象とします。

2. 選考基準

以下のいずれかの要素に該当するもの。

- ① 時代性：時代に衝撃を与え、時代を象徴するもの
- ② 革新性：斬新な発想で社会に新鮮な感動をもたらすもの
- ③ 文化性：人々の心に快適さや豊かさをもたらすもの
- ④ 国際性：国を超えて更には時間を超えて、広く人々に共感をもたらすもの
- ⑤ 社会性：地域や人々の生活を活性化させ、幸せ感をもたらすもの

3. 賞の種類

(1)【大賞】

1件：副賞 50万円、楯（澄川伸一デザイン）

(2)【各賞】

3件：副賞 25万円、楯（澄川伸一デザイン）



4. 選考について

一般財団法人日本ファッション協会「顕彰制度委員会」にて、3回の審議を経て表彰案件を決定します。

■選考委員長

日覺 昭廣

一般財団法人日本ファッション協会 理事長／東レ株式会社 代表取締役会長

■選考委員長代行

岩田 彰一郎

株式会社フォース・マーケティングアンドマネージメント 代表取締役CEO

■選考委員 (50音順)

伊東 順二

アートプロデューサー

今井 環

公益財団法人NHK交響楽団 元理事長

内館 牧子

脚本家

大田 佳宏

Arithmer株式会社 代表取締役社長 兼 CEO

大宅 映子

評論家／公益財団法人大宅壮一文庫 理事長

加藤 タキ

コーディネーター

河原 敏文

プロデューサー／ディレクター／CGアーティスト

永井 多恵子

公益社団法人ユネスコ国際演劇協会 会長

原 由美子

ファッションディレクター

福井 次矢

日本薬科大学 学長

5. 結果発表および表彰式

第3回選考委員会終了後、マスコミなどを通じて結果を発表し、2026年3月に表彰式を開催します(予定)。

応募方法

自薦・他薦は問いません。所定の応募用紙にご記入いただき事務局までお送りください。

応募用紙は https://www.japanfashion.or.jp/news/jca2025_bosyu/ よりダウンロードしてください。

なお、関連記事や写真など、案件の内容が分かる資料がございましたら添付願います。

応募先

一般財団法人日本ファッション協会
日本クリエイション大賞事務局

〒101-0051

東京都千代田区神田神保町1-5-1 神保町須賀ビル7階

TEL.03-3295-1311 FAX.03-3295-3295

E-mail: info@japanfashion.or.jp

応募に関する ご注意

- ◆ 応募内容は公開することもありますので、著作権、版權、工業所有権などの秘密保持を有するものに関してはご注意ください。
- ◆ 応募書類、資料等の返却はいたしません。
- ◆ 審査の対象になるかご判断が難しい場合は、お気軽に事務局までご相談ください。

締切は、2025年10月15日とさせていただきます。

後援

日本商工会議所 東京商工会議所 NHK

日本クリエイション大賞2024表彰案件

JAPAN CREATION AWARD 2024

大賞

北川 啓介氏 北川 珠美氏

(名古屋工業大学大学院 教授)

(名古屋工業大学 研究員)

「被災地から世界へ拡がる“希望”のインスタントハウス」

2024年1月1日16時10分、能登半島は最大震度7の地震に襲われた。

地震翌日に現地入りした名古屋工業大学大学院の北川啓介教授は、避難所に段ボール製の「インスタントハウス」を設置し、多くの被災者に、プライバシーを守り寒さを防ぐ空間を届けた。地震直後は、名古屋で工場生産体制の整備などを行っていた妻で名古屋工業大学研究員の北川珠美氏とともに、9月上旬までに屋内用約1100棟のほか、最大10人ほど入れ、寝室や生活空間として使われる防水仕様の白い素材で覆われた高さ4.3m、床面積20㎡の屋外用インスタントハウスを、175棟ほど能登半島各所に建設した。9月下旬に発生した豪雨の際も再び甚大な被害を受けた同地を訪れ、新たに75棟を建設している。

暑さ、寒さに強く、中に入ると「心が安らぐ」インスタントハウスは、国内だけでなく世界中の被災地や紛争地、難民キャンプで住まいに困る人々に“希望”を届けている。



北川 啓介氏

北川 珠美氏



人々の手によってイラストで飾られていった屋外用インスタントハウス

海風の匠賞

株式会社ノースセール・ジャパン

「洋上の輝きを支える最強の国産セール」

パリ五輪の混合470（よんななまる）級で日本の岡田奎樹・吉岡美帆組が銀メダルを獲得し、注目を集めたセーリング。混合級に出場した19艇のうち15艇に用いられていたのが、日本の株式会社ノースセール・ジャパンがつくったセールである。世界には多くのセールメーカーが存在するにもかかわらず、前回の東京大会では男子19艇のうち17艇、女子は21艇すべてに選ばれており、パリでも東京でも、同社のセールを用いたチームが金銀銅を独占した。

ヨットのエンジンと言われるセール。デザイナーは風域、セーラーの体格などを考慮して理想的なセールカーブを想定し、コンピューター上で3Dのセールを作り上げ、それに合わせて製作する。理想的なセールカーブを実現する高い技術力こそ、同社のセールが、世界のトップ・セーラーたちに愛され、絶大な信頼を受けている理由である。



スペインバルマで開催された「2024年470世界選手権」3位の岡田奎樹・吉岡美帆組 ノースセール・ジャパンの帆を使用

水素社会創造賞

アルハイテック株式会社

「富山発、廃アルミが生み出す未来の環境」

アルハイテック株式会社は、廃アルミを原料として、水素の製造に取り組んでいるベンチャー企業である。富山県の運送会社で環境事業を担当していた水木伸明氏が、「エネルギーを使って廃アルミを運び、焼却・埋め立て処分すること」に疑問を感じ、廃アルミの再利用への挑戦を決意し創業した。

水木氏はエネルギーの専門家ではなかったが、アルミ産業が盛んな富山県の工業技術センターや富山大学などの専門家からアドバイスを受け、2016年、独自開発したアルカリ系水溶液を用いて、二酸化炭素を出さずに、廃アルミから水素を発生させる検証プラントを完成させる。できた水素は燃料電池に送られ、発電に利用される。水とアルミがあれば「いつでも、どこでも、誰にでも」水素をつくることのできる可搬型水素製造装置も開発し、水素エネルギー社会の実現を目指して事業を展開している。



定置型水素製造装置

衣料から医療へ賞

福井経編興業株式会社

「ニットの技術で守り続ける幼い命」

2024年、創業80年を迎えた福井経編興業株式会社は、従業員数90名弱にして、国内最大規模の経編メーカーである。大手取引先から編み工程だけを受託する企業が多い業界の中で、購入した原糸を加工し、自主開発・販売することに力を注いできた。

同社と大阪医科薬科大学、帝人株式会社の3者で共同開発したのが、生まれつき心臓の壁に穴が開いていたり、血管が狭まっていたりする「先天性心疾患」の治療に用いる心・血管修復パッチ「シンフォリウム」である。シンフォリウムは、身体の成長に合わせて伸張する。これによって再手術のリスクが低減され、患者の負担が軽減することが期待されている。2014年のプロジェクト開始から10年、世界で初めて実用化され、厚生労働省の認可も得て2024年6月から販売されている。衣料から医療へ「これまで培ってきたニットの技術で子どもの命を救いたい」という福井経編の想いが結実したプロジェクトである。



先天性心疾患の治療に用いられる心・血管修復パッチ「シンフォリウム」／写真提供：帝人株式会社